

二松學舎 松苓會報



CONTENTS

- P2 卒業生のみなさんへ
- P3 平成26年度ホームカミングデー
- P6 教壇を去られる先生方
- P7 松苓会各支部活動報告
- P14 卒業生だより
- P15 卒業生の活躍
- P16 大学だより
- P17 活躍する学生諸君
- P18 キャリアセンターより
- P19 教職支援センターから
- P20 松苓会の歩み(4)
- P23 松苓会役員・支部長名簿 祝センバツ出場
- P24 『体験的国際政治経済』の紹介
- P24 寄付者芳名・訃報・編集後記 他

No. 52

2015年3月16日

卒業生のみなさんへ



二松學舎大学
学長
渡辺 和則



二松學舎松苓会
会長
神津 賢一郎

晴れて学部学位記を授与された皆さんが二松學舎大学に入学されたとき、千鳥ヶ淵の桜舞の歓迎を受け、そしてさくら乱舞から葉桜、紅葉と繰り返すこと幾星霜。学問の研鑽を重ね、再び桜の蕾ふくらみ、まさに咲かんとする春の佳き日、希望に胸ふくらませて卒業式を迎えられたことは、感無量の喜びであると思えます。

二松學舎大学の卒業生を以て組織する同窓会「松苓会」を代表しましてご卒業を心よりお慶び申し上げます。皆さんは二松學舎大学を卒業すると同時に松苓会の一員になります。二松學舎同窓会が松苓会という名前が付けられてより本年度で八十三

卒業生の皆さんへ、人生の邂逅

卒業生の皆さん、ご卒業おめでとうございませう。今日から二松學舎大学は皆さんの母校です。そしてまた皆さんは二松學舎松苓会の会員です。松苓会には全国都道府県に支部があり、支部総会が毎年各地で開催されています。人生は邂逅と謝念であると亀井勝一郎(文芸評論家)は言いました。人は人生の過途に、振り返ってみると、いまの自分がこうしてあるのは、あの時、あの人に、あの書物に、出会ったお蔭かもしれないということがあります。皆さんにとって松苓会支部総会への参加は、もしかすると皆さんの人生を人生たらしめる感激的な邂逅となるかもしれません。ぜひ地元支部総会に出席しましょう。

感激的な邂逅と言えばヘレン・ケラー

年になります。この間二万有餘の会員が全国で活躍しています。今や国内のみならず世界で活躍しています。

ところで、二松學舎第三代会長洪沢栄一は日本の資本主義の礎を築いた人で日本近代資本主義の父と呼ばれており、五百社を超える企業の設立に関与しているが、企業経営に一貫した信念を持っていました。それは企業倫理です。著書『論語と算盤』に「富をなす方法手段は、第一に公益を旨とし、人を虐げるとか人に害を与えるとか、人を欺くとかあるいは偽りなどということのない様にしなければならぬ」と述べています。これは論語から導き出したもの

のことが思い出されます。ヘレン・ケラーは、哲学を学んでいくうちに、たとえ色も音もない世界に閉ざされていても、そのハンディキャップを超越して、自分では不可見の美しい景色や不可聴の小鳥の囀りを叙述するという信念を持つようになりました。しかし一方ではそれは単なる独善かもしれないという疑念がありました。だが彼女はルネ・デカルトの『方法序説』(1637)に見える「我思う。ゆえに我あり。」という言葉に行き当たったときに、自分のハンディキャップは自分の本質ではない、本質は自分の心にある、ということに気付き、疑念は払拭され、信念は確信へと変わったと述懐しています。ヘレン・ケラーにとってデカルトの魂と魂の触れ合いは、彼女の智慧の目が開かれた邂逅となったのです。

であるが、このような経営理念を持った日本人がいたこと、二松學舎の舎長でもあったことに深く感銘し、誇りに思うわけです。

論語に「富と貴とは人の欲する所なり。その道を以てこれを得ざれば、抛らざるなり」とありますが、洪沢栄一は企業目的は利益追求にあるが根底には倫理がなければならぬと言っているのです。

しかし現今は熾烈な競争社会。皆さんは企業戦士として身を投ずるわけです。どうかどんなに厳しい状況にあっても人間としての自分を見失うことなく、洪沢栄一のように自分の信念を貫いて欲しいと思います。

ところで、卒業は人間修養の契機です。卒業によって人生が始まり、職業や学問研究が始まります。皆さんは、全てが欠けていると思うべきです。そして「われ以外みな師」の気持ちをもって周囲の人たちの良い所を学ぶことです。

あめつち に われ ひとり ぬて
たつとき この さびしさを きみ
は ぼほあむむ

(天地に) われ一人ぬて 立つこと
き この淋しさを 君はぼほあむむ

これは会津八一(美術史家)の歌ですが、皆さんが誠実に学ぼうとすれば、誰もが皆さんのことを優しく迎え入れてくれます。とくに松苓会の諸先輩方には本年度卒業した人たちのことを宜しくお願致します。卒業生の皆さんの健康と健闘を祈ります。

ホームカミングデー

平成 26 年 11 月 2 日

平成26年11月2日(日)、第10回ホームカミングデー懇親会が14時30分から開催されました。本学卒業生に、在学生の活躍する姿やいまの学園祭の様子を知って頂きたいとの思いから、平成23年度より学園祭の時期にあわせて開催してきました。懇親会は13階ラウンジで行われ、卒業後初めて大学を訪れた方もたくさんおいででした。開会の後、神津賢一郎松苓会会長、渡辺和則学長の挨拶があり、続いて五十嵐清常任理事からの祝辞がありました。その後、第12回卒業の末吉榮三松苓会顧問による乾杯の発声の後、懇談に移りました。

全国から集まった参加者は、約240名で、会場では、先輩や後輩が輪になったり、名誉教授や現職の大学教職員を囲んで話し合ったりして、和やかに懇談する姿が見られました。最後に、参加者全員で校歌を斉唱して散会しました。

一方、ホームカミングデーに併せて、11月2日と3日に開催された11階を会場とした卒業生作品展には、書や写真など39点の出品があり、多くの来場者で賑わいました。また、5年ごとの招待期の卒業アルバムを展示し、夏の甲子園で活躍した附属高等学校野球部の紹介を掲示しました。さらに、地下2階の展示室には、昨年5月に逝去された元学長佐古純一郎先生と招待期卒業生松苓会文庫のコーナーを設けて、著書の紹介等を行いました。卒業生の活躍に、改めて刺激を受けた展示コーナーとなりました。



松苓会からのご案内

松苓会第20回定期総会
平成27年6月13日(土)
ホームカミングデー
平成27年12月13日(日)
九段1号館が改修工事のため、例年の学園祭開催日ではなく、12月13日に延期して行う予定です。

ホームカミングデー



ホームカミングデー



教壇を去られる先生方

長年にわたり、母校で教鞭をとられた芹川哲世先生、武永尚子先生が、本年三月で定年を迎えられます。両教授に定年を迎えるにあたっての思いを、ご寄稿頂きました。



定年退職に臨んで

芹川 哲世

韓国滞任十七年を経て私が本学に着任したのは平成元年の春であった。御自身の少年時代の体験から人一倍韓国への思い入れの深かった元学長の佐古純一郎先生の宿願により文学部の中に韓国語コースが出来、専任教員として招かれたのであった。

韓国は一九八七年の民主化、一九八八年のソウルオリンピックを経て政治・経済共に先進国への道を歩み始めていた。日韓関係も良好で二〇〇一年の日韓共同ワールドカップの開催、二〇〇三年からの韓流ブームを通じて全国の大学に一齐に韓国語講座が開かれた。私が本学に在学中の一九六〇年代後半には韓国語を教えている大学は関東には皆無であったし、関西にわずか二校のみであった。

現在は八百校を超える四年制大学の中で四百校を超えるし、高校でも二百校を超える学校で韓国語を教えるまでに至った。全く隔世の感がある。いにしえからの両国の地理的、歴史的關係から見てやつと正常な関係に戻ったと言えようか。韓国語コースは、その間二名の定年退職者を出し、現在専任教員二人、非常勤教員五人を数え、私がゼミを担当したのは遅かったが、それでもすでに数名の研究者を輩出している。韓国に限定しての交流といえば、学部で成均館大学との学部学生交流はあるものの到底活発であるとは言えない。交

流学校の数も増やし、中国との大学交流のように何よりも大学院、教員間の交流を始めるべきであろう。私の願いとしてはもう一つの漢字文化圏であるベトナムの大学との交流を加え、真の意味での漢字漢文学の研究交流を深めてほしいことである。それによりはじめて漢文学の世界的拠点づくりに二松學舎がより多くの貢献が出来ると思っからである。大学には完成などありえないであろう。終わりにこれからも陰ながら途上にある二松學舎の発展のために松苓会員として協力していきたいと願っている。

二松學舎大学文学部卒業。ソウル大学大学院韓国語文学科修了。韓国、世宗大学、仁荷大学教授を経て、平成元年二松學舎大学に着任後、二十六年間勤務。



定年退職を迎えて

武永 尚子

二松學舎において非常勤時代を含め二十八年間中国語教育に携わってまいりました。しかし私は学生時代は中国哲学を専攻して漢文を読んでいましたし、その後台湾の故宮博物院での三年間は文物の研究、帰国後十年間は商社勤務という、中国語教育とはあまり縁のない世界で過ごしていました。〇一時代の後半に、中国語の非常勤講師というチャンスを得

ていただきました。中国語にあまり自信がありませんでしたので、それから教えるための中国語を猛烈に勉強しました。その後縁あって二松學舎の非常勤講師として呼んでいただきました。当時本校の学生の語学力は大変なものでしたが、そんな学生たちにどんなことを質問されても絶対答えるぞとの意気込みで、いつも勉強したものです。

現在、本校に採用された当時のことを振り返ってみますと、中国ブームおよびバブル期という大きな幸運に恵まれていたことを実感します。あの時採っていたことを実感します。その後盾のない私は今でも非常勤のままだったかもしれません。非常勤講師と言うのは辞めると大学とも学生とも完全に縁が切れてしまします。その点、専任になったためか、それとも二松學舎という校風のためか、着任当初の学生たちとさえ現在でも交流が続いています。

また、前後三期六年間国際交流センター長を務めたこともいい思い出

です。中国をはじめ台湾、韓国など外国からの留学生と直接触れ合うことにより、国際的な感覚を肌で感じる事ができました。

精神的にも経済的にも安定した生活、そして充実した人生を送らせてくださった二松學舎大学に心から感謝いたします。

広島大学文学部哲学科中国哲学専攻卒業、同大学院修士課程修了。中華民国国立故宮博物院勤務、商社勤務、大東文化大学・埼玉大学・二松學舎大学非常勤講師をへて、平成二年二松學舎大学専任講師として着任。国際交流センター長。

松苓会各支部活動報告

出席・参加者欄は敬称略

北海道支部

支部総会 支部長 増井義昭

平成26年度北海道支部総会が、8月23日、午後5時30分より、札幌市中央区南四条西四丁目すずらんビル別館7階にある「珀や別邸」(ひやくやべつてい)にて行われました。当日は本部より小林幹事長の出席を頂いての開催となりました。出席者は7名と質素なものでは有りましたが、遠くは網走市より駆けつけて下さった会員もおいでで、中身は大変な盛り上りを見せた総会となりました。

出席会員より、お孫さんの進路についての相談が有り、幹事長も真剣な受け答えをされておられました。北海道支部会員数、要するに、二松學舎の卒業生が、北海道に何人くらい居るのだからかと考える時、数字上は約250人と推察をしておりますが、この卒業生全てに松苓会北海道支部の活動をお知らせする事は出来ておりません。又それは不可能にも思われます。その様な中において、総会等の集まりでの出席人数を増やすのは至難の業かと思われます。我々はこの様な低出席率の中にお

いて、札幌における総会及び新年会等、釧路にて行われる道東分会、函館の道南分会、そして旭川で開催されるこの道北分会とを合せて、四、五十名の参加者を目指して運営を行っております。

二松の昔を語り、今の二松を知りたく集まる人々を我々は大事にしております。何かほんのりと明るい、心の拠点になる事が会を続ける最大の鉄則と考えておりますから。

現在、北海道支部の集まりには、文学部卒業生だけの出席となっておりませんが、国際政治経済学部の卒業生も数を増しているのですから、我が北海道にも何名かの同窓生が居るのではないかと思われます。この方々への声掛けをいかに行うかが今後の課題となるのではないかと、その様な事をも考えております。

北海道にも何名かの同窓生が居るのではないかと思われます。この方々への声掛けをいかに行うかが今後の課題となるのではないかと、その様な事をも考えております。



札幌市・珀や別邸にて

支部新年会 事務局長 山崎郁紀
暴風雪が荒れ狂い、空港封鎖やJR不通等交通関係大混乱の1月8日(木)、札幌ススキノのスペイン料理店「パールグラニタ」で開催されました。

暴風雪の影響で欠席者の相次ぐ中、遠方は道南せたな町からも参加があり、女性や若い人達を中心であったので学生時代や仕事の話で盛り上りました。二次会は若松氏の同級生が経営する店で、半数が関東出身者であったので北海道方言や料理について話

がはずみ店を出たのは11時過ぎ、夏の総会や秋の各分会での再会を約束し散会しました。(遠方からの参加者は前日からの宿泊者)
参加者 齊藤裕子(文69せたな町)、富永貴之(文65千歳市)、永田哲之(文65伊達市)、若松顕仁(文56千歳市)、吉野泰正(文55旭川市)、山崎郁紀(文36札幌市)



札幌市・パールグラニタにて

五稜郭「清寿司」で開催されました。

札幌から参加した増井支部長と私は、札幌から250キロ(高速道路を使わず5時間)安全運転で駅前ホテルに到着、入浴後市電に乗って会場へ。
会場の「清寿司」は、足の不自由な南部前分会長も参加できるように掘炬燵の座席であったが残念ながらドクターストップで今回は参加できなかった。いつもより少人数の会とはなつたが、マンボウの胃袋などの珍味を味わいながら函館弁で盛り上りました。
二次会は駅前に市電で移動し、生ハムやカクテルの美味しい店を楽しみました。翌日は明治時代の建物の多くが残る元町地区と再建された箱館奉行所を見学して帰途につきました。



函館市・五稜郭「清寿司」にて

道南分会総会 事務局長 山崎郁紀
平成26年度北海道支部道南分会総会は、10月11日(土)、函館市

参加者 田島基義(文38分会長)、開原正信(文39)、吉川肇(文59幹事)、吉川真理絵(文60)、増井義昭(文39)

道東分会総会 事務局長 山崎郁紀
 平成26年度北海道支部道東分会総
 会は、10月18日(土)、釧路市栄町
 「ふく亭本店」で開催されました。
 会は、冒頭今年亡くなられた米川
 智義(文33)先輩のご冥福を祈って
 黙祷をして始まりました。今回はま
 た、根室の伊藤夫妻が産業祭で、増
 井支部長が美術品鑑定会で参加でき
 ず少し寂しい会となりましたが、
 釧路の豊饒な海の恵みを味わいな
 がら学生時代の話に花を咲かせまし
 た。総会では、川谷分会長が北見地
 方に同窓生が減少してきたので、同
 窓生の多い十勝地方の参加者を増や
 すべく帯広



釧路市・ふく亭本店にて

の澤向崇氏
 に分会長に
 なつてもら
 いたい旨の
 提案があり
 了承されま
 した。
 二次会は
 例のつぶ焼
 屋で打上
 げました。
 来年は帯広
 での開催が
 期待されます。
 参加者 川谷文雄(文39北見)
 澤向崇文39帯広、五十嵐猛(文56幹
 事、釧路)眞野清恵(文60釧路)、山崎
 郁紀(文36札幌)

道北分会総会 事務局長 山崎郁紀
 平成26年度北海道支部道北分会
 総会は、10月25日(土)、旭川市5・7小
 路「いづく屋てんゆう」で開催されま
 した。
 昨年にひき続き稚内から特急列車
 で4時間かけて2名が参加、さらに砂
 川から初めての参加者もあって盛会と
 なりました。



旭川市・いづく屋てんゆうにて

最近の大学の状況や、学生時代の話
 に盛り上り、二次会のスナックでも歌
 うことなく延々と話が続きました。途
 中いつも参加してくれる工藤昌彦氏
 も顔を出し
 てくれまし
 た。
 来年は、
 深川、滝川、
 名寄等から
 も参加を期
 待したい。
 道北分会は
 若い人の参
 加が多いの
 で今後も盛
 会が期待さ
 れます。
 参加者 湊邦夫(文43旭川)、吉
 野泰正(文55旭川)、増子優(文56稚
 内)、松林豪文59幹事、旭川)、川又則
 人(文66砂川)、佐々木伸(文74稚内)、
 増井義昭文39支部長、札幌)、山崎郁
 紀(文36事務局長、札幌)

支部会報
 第49号 平成26年7月23日発行
 ・支部会員の異動
 ・平成26年新年会開催
 ・平成26年度支部総会のお知らせ
 ・「北海道」に入寮を
 第50号 平成26年12月10日発行
 ・北海道支部総会開催しました！
 ・道南分会総会開催しました！
 ・道東分会総会開催しました！
 ・道北分会総会開催しました！
 ・平成27年新年会のお知らせ！
 ・会計報告

秋田県支部

支部総会 支部長 三浦 基

平成26年8月30日(土)午後6時
 から、秋田駅前のホテルメトロポリ
 タン秋田で開催した。

今年度の県支部総会案内は、「松
 苓会名簿 秋田県」平成24年7月20
 日発行版記載191名から、宛先不
 明返送を除く160名に送付した。
 郵送経費負担増から、返信の有無を
 も考慮したい。参加者の減少固定、
 事務局の多忙等から、活動の弱体化
 が実態。今年度も、松苓会本部から
 「支部運営費」の助成を受け、送付
 した。

3名の会。記憶の有無にかかわら
 ず最少人数である。支部長辞任を申
 し出たが、先輩、後輩からは、その
 責を負い、現支部役員継続せよと。
 (1)総会だけではなく、県南地区で研

修会を企
 画する。

(2)支部総会
 は中央地
 区で8月
 に開催す
 る。

(3)開会時間
 を早める
 ことも可
 とする。

(4)会場を変
 え、会費
 を安価に
 する。

(5)教職員、公務員、退職した先輩も
 多い。故郷秋田とのつながりを、
 年に一度、同窓の先輩、後輩が、
 過去に共有した時代と学びを語
 り、キャリアデザインを考え、今
 を互いに感じとる、そんな時を過
 ごしたい。

以上のことを語り合い、来年度に
 向け具体化する。先ずは鈴木会員を
 中心に県南地区での研修会に期待し
 よう。

参加者 佐藤 寛(文38)・三浦
 基(文41)・鈴木隆博(文54)

宮城県支部

支部総会 支部長 千葉 仁

日時 平成26年9月14日(日)
 場所 パールダイコク(仙台市青
 葉区中央)



ホテルメトロポリタン秋田にて

名称 二松學舎松苓会宮城県支部
総会

概要 本支部の総会は例年、年末に開催されてきましたが、今年は、第3回二松學舎大学学術文化振興会が仙台で行われるのに便乗し、同日の9月14日に開催しました。多数の同窓生の参加を期待して本会からも案内を出し、参加を募りました。昼の部の講演会に同窓生12名の登録がありました。石川忠久名誉教授の「夏目漱石の歩み」、高野和基教授の「吉里吉里国」建國縁起、地方自治の多様性を考える」のテーマ、興味ある内容で大好評でありました。その流れにそって支部総会を計画しましたが、夜の部の総会には8名、本役員3名、計11名の参加でありました。

17時に開会し挨拶・大学の現況・事務的な報告等があり、内容的にはほぼ諒承されました。その中で、神津賢一郎会長の附属高校の甲子園大会出場で、「二松學舎の名が全国に宣伝された感激」が吐露されました。支部長から支部の概要の説明（九種類の資料による）等があり、総会は終了し、親睦・懇親に移りました。犬飼公之氏の乾杯の音頭で盛り上がり、参加者各人の近況報告と一言物申す」ということで、フリーに話し合われ、和やかに懇親の実があげられました。会員それぞれが、「二松學舎で学んだことを生涯の糧」として自己研鑽を重ねて今日の活躍がある、

等々の思い出と現況が口々に話されました。また、返信ハガキを回覧して欠席者の近況等についても把握ができて、その中で東日本大震災の傷痕がいまだ癒えない状況にある会員への思いを皆で馳せました。



仙台市・パールダイコクにて

附属高校が元氣一杯に活躍して全国に令名を轟かせた感激、若いチームなので来年も期待できること、併せてそれが現在の二松學舎の発展の一端を象徴するものであることが話題になりました。

ただ気になることは、地方からの入学者が減少し、地方の支部が老齢化し、松苓会が全国的規模としては衰退の実態にあることであり、地方的なウイングも必要であろう。

参加者 神津賢一郎会長(文27) 神河秀春常任幹事(文47)・馬淵裕之課長(文60)・犬飼公之(文34)・五十嵐伸治(文44)・田代ひとみ(文44)・佐々木啓充(文51)・木村裕一(文52)・高橋健司(文56)・高橋弘枝(文55)・千葉 仁(文27)

東京都支部

松苓会東京支部では、会員の懇親を目的として10月の第一日曜日にレクリエーションを行うこととしており、女子役員が中心となり企画立案を行っている。平成26年度は10月5日(日)に、「数寄屋造りで味わう豆腐懐石と徳川將軍ゆかりの増上寺めぐり」というタイトルで実施した。

当日は台風が接近する悪天候の中、31名が参加。なかなか予約を取ることができない人気店の「東京芝とつふ屋うかい」で正午より昼食スタート。東京支部会員の他、渡辺和則学長や他県支部の方等、幅広い年齢層に参加していただき、和やかな雰囲気の中、次々と運ばれてくる懐石料理を堪能した。食事の間には、各席のグループの代表の方に近況や学生時代のエピソードをお話しいただき、大いに盛り上がった。

午後2時半より大雨の中、「うかい」のすぐ近くの大本山増上寺を見学。増上寺の案内役の方とじっくりとまわり、いろいろと解説していただいた。特別公開中の徳川將軍家霊廟や増上寺の歴史などを詳しく知ることができた。午後4時頃お開きとなった。

松苓会東京支部は、各支部の中で、最多の会員数だが、企画や総会等参加者がなかなか集まらないのが現状

である。会員相互の親睦をはかるという松苓会の目的を推進するため、女子会企画は男性はもちろん東京支部会員でない方も是非ご参加いただきたい。二松學舎大学及び関係者の皆様を東京から元気にしたいと考えている。



東京芝・とうふ屋うかいにて

- 支部報
- 第57号 平成27年1月1日発行
 - ・年頭所感 支部長 井上和男
 - ・新春を祝して 顧問 木村正雄
 - ・東京支部総会報告 事務局長 中原敬二
 - ・古典を楽しむ 講師 原由来恵準教授
 - ・千葉支部総会出席報告 常任幹事 渡辺大雄
 - ・神奈川支部総会出席報告 副支部長 矢澤喜成
 - ・会計報告・活動報告 附属高校教諭 戸張 誠
 - ・夏の甲子園出場
 - ・支部女子会企画行事 第2回 豆腐懐石と増上寺めぐり 幹事長 片山聖英
- 参加者の声

神奈川県支部

文学歴史探訪の会

- ・女子会代表 星野優子
- ・二松人物列伝 橋 周太(下)
- ・コラム「三番町」
副支部長 矢澤喜成
- ・常任幹事 高柳幸雄
- ・事務局日より 編集後記
- ・一年を振り返って
監事 大山由美子

三浦地区長 前田 明

10月25日、秋晴れの好天にめぐまれた。昨年度は大雨の荒天でこの会を実施できなかったため、この日の秋晴れは殊更嬉しかった。

午前11時、JR横須賀駅に集合。まず駅からすぐのヴェルニー記念館を見学。この記念館は横須賀製鉄所(造船所)を建設し、日本近代工業化の基礎をつくりあげたフランス人、フランソワ・レオンス・ヴェルニーの功績と横須賀製鉄所建設の意義を、永く後世に伝えるために建てられた。この横須賀製鉄所が設計施工して日本最初の洋式灯台観音崎灯台がつくられたことを今回、改めて知った。正にこの製鉄所は日本各地への近代西洋技術の発信源であったのだらう。

記念館を見学後、バラの花咲くヴェルニー公園を歩く。公園内には製鉄所建設を推進した小栗上野介の胸像や、当時横須賀を訪れた正岡子

規の句碑などがある。ほどなく軍港めぐりの船着き場に到着。今回の探訪のメインである横須賀港を船で巡る。軍の施設や海上自衛隊の艦船を間近で見た。私はこのクルージングをするたびに横須賀はやっぱアメリカ海軍の町なのだとしみじみ思うのだ。45分間ほどのクルーズが終り、メルキュールホテル横須賀のラウンジで昼食。名物のよこすか海軍カレーをいただく。海上自衛隊では遠洋航海中に曜日感覚を失わないために、金曜日には必ずカレーを提供していたという。現在はこの習慣は船上勤務部隊に限らず、すべての部署に広がったという。横須賀とカレーの歴史は長い。



横須賀市・ヴェルニー公園にて

食後はぶらぶら、どぶ板通りを散歩。通りには昔ながらの肖像画店やスカジャンのお店。また、ミリタリーショップでは本物の米軍放出のシャツやコートなどが売られている。通りでみんなで記念写真。最後はベイスのゲートの前を通り、再びJR横須賀駅へ向かった。

秋晴れの半日、楽しい散策でした。参加された皆様、どうもありがとうございました。とうございました。

新年賀詞交歓会 支部長 平野光治
平成27年1月18日(日) 横浜崎陽軒本店にて、平成27年二松學舎松苓会神奈川県支部賀詞交歓会が開催されました。松苓会本部 神津賢一郎会長、東京支部 木村正雄顧問、神奈川県教員の会 藤井隆晴会長をお迎えし、支部会員、賛助会員13名を含め、16名の参加となりました。支部長挨拶後、神津賢一郎会長、木村正雄顧問、藤井隆晴会長より、ご挨拶をいただきました。井上興正顧問による乾杯後、会員の皆様からご挨拶並びに近況報告をいただきました。また、崎陽軒本店の歴史(社長の地域への思いやエピソード、シユウマイ弁当売り出し秘話等)についてのお話をいただきました。和やかな雰囲気の中で美味しい料理をいただき、新年の良いスタートを切ることが出来ました。

特に、会員の皆様から、神奈川県支部への今後のご協力の言葉を



横浜市・崎陽軒本店にて

いただき、支部長としての責任の重さと会員の皆様への感謝の思いを強くいたしました。予定時間を十分に楽しむことの出来た賀詞交歓会となりました。ご来賓並びにご参加いただきました皆様の雰囲気づくりと小林孝彰事務局長のご配慮の賜と深く感謝申し上げます。今後、他支部との交流を深め、会員相互の親睦をはかるために努力して参りますので、多くの皆様のご協力をお願い申し上げます。

支部報

第34号 平成26年11月10日発行

第37回支部定期総会報告

平成26年度

神奈川県支部賀詞交歓会報告

千葉支部総会に出席して

事務局 小林孝彰

会員の近況

賀詞交歓会について

支部役員名簿

第20回二松學舎大学

教育研究会発表報告

相模原高等学校教諭

山本静雄

お知らせ

資料提供への協力依頼

平成25年度決算

平成26年度予算

平成25年度事業報告

平成26年度事業計画

会費納入者名簿

静岡県支部

支部総会 支部長 永井陵次

平成26年10月25日(土)

於・ホテルクラウンパレス浜松

出席者

来賓 学長

幹事長

神奈川県支部長

支部会員

神津賢一郎(文27)

望月隆延(文33) 佐々木裕美(文45)

鈴木隆之(文49) 江本浩一(文51)

飯田郁子(文71) 永井陵次(文38)

渡辺和則

小林公雄

平野光治

今回はいつも出席して下さい
た中村先生、吉野さんがそれぞれの
御都合により欠席されたが、浜松の
佐々木さん、島田の飯田さんが久々
に御出席下さった。

又、昨年同様に御三方の御来賓
にもお出頂
き、感謝で
す。49回の
鈴木さんは
懇親会も果
てようとし
ていた頃、
お仕事の御
都合をつ
けて駆けつ
けて下さっ
た。
懇親会で
は甲子園の



ホテルクラウンパレス浜松にて

野球のこと、4号館の落成間近のこ
となどで話題沸騰であった。

今回の支部報、支部総会では、本
部の小林幹事長の御尽力に負うところ
が大きい。先ず支部報には昭和50
年代支部草創期の活動の様子を氏の
関りを基に寄稿して下さい。この
記事に付随して昭和二、三年頃専門
学校時代の先輩3名が、遠州相草
村に存した「雙松學舎」の名を慕つ
て訪問した折の訪問記を発掘して下
された。共に当県支部にとつて貴重
な記録である。又、支部総会に先だ
つては、歴代の支部活動のあらま
し、支部報の発行状況を調査して下
された。初めて知ることも多く、こ
れも貴重な資料である。支部報につ
いては途中発行されなかつた年もあ
り、平成10年からは発行年度のみで
あつたが、今回26年度が通算16号で
あることが分かった。次年度からは
号数を明記することができるよう。
本来ならば支部において調査報告す
べきを、幹事長のお手を煩わせたこ
とは申し訳なくも、又深謝に堪えな
いところである。

旧相草村「雙松學舎」については
まだ調査の手がつけられていない
が、次号にはその一端でも紹介でき
ればと考えている。

支部報

平成26年9月1日発行

・春の大学周辺

・平成25年度支部総会

支部長 永井陵次

埼玉県支部

支部総会 支部長 町田哲夫

平成26年度の埼玉県支部総会・懇
親会は11月16日(日)、秩父郡小鹿
野町で開催しました。

昨年度の総会で、開催地を県内各
地を巡回する方針が提案され、検討
に入りました。早速、持田賢一会員
から「小鹿野歌舞伎」の資料提供を
いただき、埼玉県芸術文化祭地域文
化事業「歌舞伎・郷土芸能祭」(第
44回小鹿野町郷土芸能祭)の開催に
合わせ、紅葉の小鹿野町での開催を
企画しました。

小鹿野町は約200年もの間、町
民を中心に伝統を受け継ぎ、守つて
きた「小鹿野歌舞伎」で有名な地で
す。「町じゅうが役者」の形容にふ
さわしく、役者・義太夫・裏方に
たるまで町民が演じる文化財です。
当日は、秩父駅で送迎バスを配車
し、福嶋辰美会員の秩父観光案内を

・平成25年度秀葉会
・静岡県支部活動について
松苓会幹事長 小林公雄

・雙松學舎訪問記
・富士山世界遺産登録と東京オリ
ンピック 吉野恵津子(文37)

・追悼 佐古純一郎先生の思い出
永井陵次(文38)

・返信八ガキの近況報告より

・支部会費納入者 総会のご案内
ホームカミングデー予告

聞きながら、郷土芸能祭会場に向か
いました。会場では、町民の演じる
「三番叟」、聖天神楽「天狗舞」、
歌舞伎「寿曾我対面工藤館之場」を
鑑賞しました。その後、近くの須崎
旅館で総会・懇親会という二部構成
の開催となりました。

松苓会本部からは、廣田克己副会
長のご臨席をいただき、松苓会本部
の現状をお話しいただきました。
総会は青木一弥会員の司会進行に
より、活動報告・決算報告の審議、
承認とスムーズに進行しました。

懇親会では、参加会員から近況報
告があり、終始和やかな雰囲気の中
で懇親が図られました。時の話題
は、附属高校の甲子園での活躍、ま
た、九段4号館の建設など、成長を
続ける二松學舎の話題に集中してい
ました。

今回は県北の地、小鹿野町での開
催でしたが、所用の
ため参加で
きなかつた
会員の皆さ
んからも評
価を得るこ
とができま
した。
次年度の
開催では、
さらに内容
を吟味し、
埼玉県支部



小鹿野町・須崎旅館にて

の会員相互の交流を図りたいと考えます。

来賓 廣田克己(松苓会副会長)

支部会員

- 小林公雄(文38) 木村誠次(文39)
- 中居功一(文39) 持田賢一(文40)
- 佐藤 修(文41) 福嶋辰美(文42)
- 本田和成(文42) 町田哲夫(文42)
- 町田芳子(文42) 宮沢幸子(文42)
- 八木直也(文42) 五十嵐清(文44)
- 中山幸男(文46) 青木一弥(文47)

新潟県支部

支部総会 支部長 坂井福作

新潟県支部総会を平成26年11月29日(土)「パストラル長岡」を会場に開催しました。今回は太田英則・野本茂男・長井秀憲の各氏から協力していただき、計画・案内状発送・運営を行いました。

新潟県は

地理的に縦に長く、上越・中越・下越の三地区に分かれており、会場を決めることから話し合いが新潟市で開催しましたので、県



パストラル長岡にて

の中央で集まりやすいのではということから、新幹線の駅がある「長岡市」で行うことにしました。

新潟県出身の卒業生は多く、約四百名位になります。しかし、卒業後に新潟へ帰って来られない方も多くおられ、案内を出しても返ってくる場合が多々あります。今回は、教員の方々、若い人たちに参加していただくことと、国際政治経済学部が20年になると言うことから、その人達に出来るだけ参加していただきたいと言うことで案内を出しました。

当初の期待した人数にはなりませんでした。残念なことにも今回も国際政治経済学部の卒業生の参加はありませんでした。

総会においては、廣田松苓会副会長をお招きし、大学・松苓会の様子についてお話しいただきました。議事においては、会計報告・支部役員の大田副部長の体制で支部活動をすすめていくことになりました。また、今後の支部活動については、それぞれの参加者から様々なご意見をいただきました。この課題については、引き続き行われた懇親会でも話題になりました。主な意見は、

- ・気軽に支部総会に参加できるようにする。
- ・長岡市なら、河井継之助記念館・山本五十六記念館があるので、見学を兼ねた総会にしてはどうか。

支部会報の発行をどのように進めていくか。

・若い人の参加を募るために、大学から講師を派遣していただく。これらの意見を踏まえて、本部とも連携しながら支部活動を進めていきたいと考えております。

限られた時間ではありましたが、懇親会も和気藹々のうちにお開きになり、二次会に移り交流を深めることが出来ました。

三重県支部

支部総会 事務局長 小川直紀

去る11月29日(土)午後6時より会員の山口氏の「津ミートかしわぎ」にて松苓会三重県支部「朋友会」総会を開催致しました。

引き続き杉野茂先生の出版記念祝賀会及び懇親会となりました。今回卒寿記念として伊勢新聞社より9月に『三重県名勝詩』を出版されました。特筆すべきは三重県全域にわたる初めての漢詩集で、私たちの郷土は、漢詩でどのように詠われてきたのか、心配りのある丁寧で解り易く解説されています。研究者としての大先輩の学究生活をお伺いし、併せてご長寿をお祝いしました。

以前は、総会以外に文学散歩を実施し、中江藤樹や郷土の本居宣長、佐佐木信綱等の遺跡を訪ねる企画を実施してきましたが、ここ数年は総

会時に会員所蔵の文物持参による講演やマジック等で相互研究の場を兼ねてきました。

支部総会の参加者は例年10名前後です。本年度参加の7名に加え

て常連の前野克二(文37)加藤武俊(文49)納所佳子(文54)のメンバーです。岡部さんの初参加で今回8名の出席となり、会員の近況報告や学生時代の話など懐かしく、また興味深い内容で話が弾みました。

支部出席者は写真前列右より稲垣武嗣(文33)、杉野茂(専14)、三林忠明(文34)、後列右より竹嶋秀聡(文56)、小川直紀(文44)、岡部美由紀(文57)、伊藤淑子(文38)、山口由香(文38)

群馬県支部

支部総会 副支部長 松本茂治

平成27年1月24日(土)前橋市のアニバーサリーコート・ラシーネにおいて、総会・新年会が行われました。大学から渡辺学長と松苓会本部の廣田副会長にお出いただき、出席



津ミートかしわぎにて

者13名と和やかな雰囲気の中で、会
は進められました。

総会は、新井支部長の挨拶に始ま
り、来賓紹介、廣田副支部長にもご
挨拶を賜りました。その後、昨年亡
くなられた会員への黙禱の後、議事
へと移りました。議事は次の通り提
案されました。

- 平成26年度事業報告
- 平成26年度会計報告

会計監査報告

- 平成27年度事業計画
- 平成27年度予算案

第3回書展報告及び第4回書展実
施計画

国際政治経済学部卒業生の取り
込みについて

その他 役員の補充について・諸
連絡

議事は恙なく承認され、総会は一
時間余りで終了しました。

その後の講演会では、渡辺学長の
「アダム・スミス 経済と論理」に
ついてのお話を伺いました。例年文
学に関する講演が多かったのです
が、経済学についての講演は初めて
だったので、「久しぶりに学生に戻
った感じがしました」「一時間があつ
たという間でした」などの声が聞か
れ、とても好評でした。

続いての新年会は、隣室の和室で
行われ、支部長挨拶の後の乾杯に始
まり、懇談、近況報告が行われまし
た。特に近況報告では、37回から62
回までの四半世紀にわたる会員が、

一人一人話
をしたの
で、世代に
よつての違
いもあり、
楽しいひと
ときが過せ
ました。午
後8時過ぎ
には、新年
会はお開き
となりまし
た。



前橋市・アニバーサリーコート・ラシーネにて

総会・新年会の参加者は、新井喜
義 深澤賢治 池田ふみ子 金井
俊 塚本忠男 松永昌之 都丸弥生
小石さち子 金澤正教 宮森庸子
林恒徳 西牧秀敏 松本茂治
以上13名で、来賓は、渡辺和則学
長並びに廣田克己松苓会副会長の2
名でした。

支部報「松苓群馬」

第43号 平成26年3月1日発行

平成26年度総会・新年会

支部活動に思うこと

支部長 新井喜義

ホームカミングデーに参加して

西牧秀敏(文62)

リレー随想・上州万歳

墨の香りに誘われて

小石さち子(文47)

「第3回群馬松苓会書展」の

ご案内

故 浦野匡彦先生の遺志実る

群馬文化協会「上毛かるた」
権利譲渡 県と合意書「誇り
に」

事業報告・会計報告・会計予算
支部会費納入方法について

第44号 平成27年3月1日発行

平成27年度総会・新年会開催

講演会 渡辺和則学長

新年に思うこと 支部長

ホームカミングデーに参加して

リレー随想 上州万歳

林 恒徳(文60)

第3回 書展を開催して

新入会員紹介

寄稿 三輪祐美子

訃報

平成26年度行事報告・会計報告

平成27年度行事計画・予算案

会費納入状況・会費の納入方法

について

新会員の皆さんへ

近畿連絡協議会

新年互礼会 事務局長 斉藤 衛

恒例の「松苓近畿互礼会」が数え
て67回目(昭和23年8月創設)を母
校より渡辺和則学長、神津賢一郎会
長のご臨席をいただき、平成27年2
月28日(土)午後2時開会で開催し
た。大阪千日前鳥よし本店にて総勢
9名が集まり、和気、顔色に漲り乙
未歳新年の吉祥を愛で合う。

母校近況は、渡辺学長より學舎の
九段集約計画がこの度、靖国通り



大阪市・鳥よし本店にて

の新校舎4
号館の竣工
が成り、国
文、中文、
国際政治経
済及び大学
院生の全員
が九段の地
で学ぶこと
となり、関
連する諸学
術研究機関
もその活性
と充実と発
展を期する体制が整ったこと。この
上は伝統久しい全国区大学の成果を
いっそう高めることに卒業生の更な
る支援、後援をお願いしたいとの声
に一同が深く頷いた。

松苓会は生まれて近く85周年の節
目を迎える。節目を飾るに相応しい
企画の立ち上げに、今、英知を集め
ている。全国支部を挙げての支援と
協力で盛り上げたいとの会長談。そ
うして大学附属校の活躍に話は広が
り、昨年の夏の甲子園の初陣に続き
この春もセンバツに選ばれ、夏、春
と二季連続しての甲子園出場は快挙
と言わざるを得ない。今回も一段の
「松苓近畿」の支援、応援をお願い
したいとの要請には挙って万歳の声
があがった。

一方、近畿連絡協議会の活動は、
その活性化の具体策として運営原資
の補完としての自助努力、年会費制

の創設と、年1回以上の会報の発行を行い、より細かな情報の交流と親睦を図り同窓の絆をいっそう深め、創設の志を継ぐ近畿67年の歴史に大輪の花を咲かせたいとの意気込みに堅い賛同の声を得た。

渡辺和則学長、神津賢一郎本部会長を囲み、末吉榮三(専12)、西田

清(文35)、辻一真(文39)、浦壁健三(文44)、世古幸生(文44)、武内昭徳(文47)、斉藤衛(文49)の面々が母校の今昔を語り合う姿は微笑ましい限りであった。

会報「松苓近畿」
平成27年1月15日発行
・ごあいさつ 知行合一

代表 末吉榮三
・11年ぶりの夏舞台・附属高校
・ごあいさつ
松苓会会長 神津賢一郎
・兵庫支部近況
兵庫支部部長 武内昭徳
・三重支部近況報告
三重支部部長 稲垣無得

・吉祥の群れる羊の春
奈良支部部長 辻一真
・題三重県名勝詩後 杉野紹軒
・事務局よりのお知らせ
新年互礼会等

卒業生だより

回を重ねて42回目

27期の同期会が平成26年10月熱海で開催され、42回目になりました。同期の友は高齢になり、体の不調、あるいは故人となり、当然のことながら出席者数は少なくなりましたが、年に1回会って、学生時代を語るのを楽しみにしています。因みに、いま出席している常連の4人は松苓会支部長を経験しています。石井康男(兵庫)、金子和子(福島)、神津賢一郎(静岡)、芳尾晴喜(富山)です。42回目の同期会で話題になったのは何故42回も回を重ねることができたのだからか。幹事の伊藤欣也氏の努力によるものですが、私たちが入学した時の学園闘争で団結した絆が今に繋がっているのではないか、ということになりました。

入学と学園紛争

昭和30年4月に入学した途端、先輩や教授から、二松學舎が悪徳学校経営者に乗っ取られ、学校を食い物にされている」と聞かされ、紛争中だという。愕然とする。学生自治会が結成され、決起集会、座り込み、デモ行進、三島中洲先生銅像前は人で埋め尽くされた。たまたま全学連や都学連が結成された頃で学連の活動家が学園民主化闘争ということでも、応援に来ていた。彼等は理論武装をして闘争を進めようとした。しかし、二松學舎の闘争はイデオロギーの闘いではなく、営利経営から大学本来の姿に戻そうという闘いだっただけだ。だからこそ団結したのだと思う。やがて理事長退陣で紛争は終結。オンボロ木造校舎だったけど有名な先生方に恵まれた学問の府になった。こんな体験をしたからこそ同期会での話題が豊富で永く続いたのかもされない。

同期会の経緯
第1回目は学園闘争終結の慰労反

省会といつた趣旨の同期会で昭和34年に東京九段上の「大周楼」で開催。2回目も同じ場所。数年して熱海で3回目の同期会を開催。4回目から幹事を伊藤欣也が引き受け、全国各地に居る同期生に温泉宿を紹介してもらい開催するようになった。北は北海道から東北、北陸、関東、東海、の各地に亘っている。時期は教職員が多かったので、夏休みの8月に開催。

萩谷先生を囲む会

萩谷先生を招くようになったら、同期でない方から参加希望があったので、「萩谷先生を囲む会」となった。



熱海市にて

萩谷先生は歩行が不自由だったため、佐佐木鍾三郎先生が付き添って来られるようになりましたが回を重ね30回目に萩谷先生からもう無理だから終わりにしてくれということになり、それ以降は27期会として毎年続けています。

この文章の骨子は幹事の伊藤欣也氏から頂いたものです。深く感謝、文責は神津。

伊藤欣也氏は退職後、下田の温泉付きの家を購入して、マラソンで体を鍛えております。

第38回卒(秀葉会) 14回目の同期会

第38回卒(昭和45年3月卒)の同期会が、昨年11月2日(日)午後5時から九段上の中華料理店「小星星」で開催された。平成26年は、卒業後45年目にあたり、松苓会主催のホームカミングデーの

卒業生の活躍

森上光月さん改組日展で特選



今年度、改組 新第一回 日展に、かな書家で岡山県倉敷市在住の

森上光月（本名・照恵）さんが第五科書で特選（10人）に選ばれました。森上さんは、文学部48回卒業生（昭和55年卒）です。森上さんから、「今回の受賞が、後に続く皆さんの励みになればこんな嬉しいことはありません」とうかがいました。

昭和55年より岡山県立児島高等学校書道非常勤講師として7年間勤務

昭和55年より、現文化勲章受章者高木聖鶴に師事 現在に至る

招待年に当たっていた。昭和53年8月6日に柴田周蔵先生、佐古純一郎先生を迎えて第1回の会合を東條会館で開催してから、今回は14回目の同期会になる。当初は3年に1度の開催であったが、平成5年の第6回以降は5年に1度となり、平成21年からは毎年開催することとなった。当日は、ホームカミングデーに22名、同期会に20

名が参加した。ホームカミングデーでは38回を代表して金子廣志氏（埼玉・新座市教育長）が挨拶を述べた。同期会は、まず5月6日に「逝去された佐古純一郎先生、及び同期の物故者に黙祷を捧げたあと、会食・懇談に移り、参加者全員から近況報告、さらに幹事から経過報告、会計報告があり、和やかなうちに再会を期して散会した。参加者は次の

とあり。
東 一雄・浅香孝子・伊藤慶子・伊藤淑子・生垣しげ子・石塚法子・市川友子・越川幸代・小谷章公・小林公雄・小林憲二・小林孝彰・佐藤節三・齋藤 裕・順道数代・田原迫俊朗・永井陵次・廣田克己・松浦紀子・吉岡富子
なお、ホームカミングデーには次の同期生も参加した。

加藤早智子・金子廣志・小杉絹代・佐藤正機



ホームカミングデーに出席の38回生

書歴

・日展会友（入選18回）（特選1回）
・読売書法会企画委員・審査員（本年度審査員）
・日本書芸員理事・岡山県書道連盟副会長・岡山県美術展審査委員・光陽書道会主宰

授賞理由

梅花三首を厳しい書線で、自在に展開させた見事な快作。仮名独特の流動感が自然な運筆の呼吸で立体的に形成された紙面には、その美しい景色と相俟って、澄明感漂う和様美が巧みに表現されている。



森上光月 特選 梅の花 第1回日展 (2014)

富士山写真大賞展で受賞の和田賢一さん企画展に出品



本年1月2日、3月1日、笠間日動美術館で開催された企画展「日本の美・富士の花」に和田賢一さん（政経1回・沼津市在住）の写真「富士山と桜」が展示されました。同氏は、DVD「日本の美と文学」（桜と富士山・作家芹沢光治良の生涯を写真で追う等）を製作、1月28日の東京新聞、中日新聞で紹介されました。

和田賢一さんは、平成20年仕事中に心拍が毎分220回に急上昇し、一時寝たきりになりました。その後病氣も快復し、平成25年河口湖美術館主催の「富士山写真大賞展」で受賞し、今回の企画展に展示されました。

和田さんは、「想いは現実になる」という信念を持ち、自分の快復体験が卒業生の皆様のお力になれば嬉しいと話されていました。



受賞作品の「富士山と桜」

大学だより

靖国通りに九段4号館竣工

かねて建築中だった大学九段4号館が昨年12月17日に竣工し、年明けから学生の授業に使用されている。地上9階建てで、1階はエントランスホール、事務室、講師室、2階はラーニングcommons、3階から6階まではそれぞれの階に120人収容の大教室、7、8階には小教室が配置され、9階には東アジア学術総合研究所が入っている。九段4号館は、靖国神社がすぐ目の前の靖国通りに面し、1号館から約200mの近距離に位置する。現在、4号館の完成に伴う既存校舎（1、2、3号館）の改修工事が進められている。



水戸英則編著
『今、なぜ「大学改革」か？』
私立大学の戦略的経営の必要性』刊行



現在母校では、先年策定した中長期計画Z2020Planをもとに大学改革を推進しているが、Z2020Plan策定の経緯等を盛り込んだ標記図書が、二松學舎ブックスと銘打って水戸英則理事長編著で昨年9月15日刊行された。

「はじめに」で著者は記している。「筆者は、平成16年に金融界から教育の世界に入った。教育業界に入った理由は、地方勤務時に地元私立大学で、請われて金融論の非常勤講師を兼務で約6年続けたが、その時に大学教育の大切さ、重要性を身に染みて感じたからである。その後、私立大学経営に従事して、足かけ10年、少子化や知識基盤社会の進展等環境激変の中で、経営・教育改革を進めてきた。特に学校経営手法面においては、企業経営の原則を応用できる

ところは導入するなど、改革を行ってきたが、本書はこの間の経緯を、内外の講演・研修講義録をもとに書き記したものである。また同時に、文部科学省国立大学法人評価委員会委員、同分科会専門員、同財務・業務専門部会委員、日本高等教育評価機構評価員、日本私立大学協会監事などを務め、文部科学省、日本私立学校振興・共済事業団、日本私立大学団体連合会、日本私立大学協会やその他調査機関から発出されている多くの私立大学に関する文献、同経営・教育改革等関連資料に触れる機会も多く、本書では、これらの資料を系統的に組み直しつつ引用、掲載することに努めた。」
本書には、本学のZ2020Planや本学の取組が随所に紹介されている。本学の大学改革が所期の目的を達成されることを祈る。

教員免許状更新講習のお知らせ

1. 実施日程

平成 27 年 8 月 3 日 ~ 7 日

2. 会場

二松學舎大学九段 3 号館

3. 受入人数 100 名

詳細は大学教務課にお問い合わせください。

学生の各賞受賞一覧（平成26年度）

個人		
大会名	受賞内容	氏名
第99回全国学生書教展	文部科学大臣奨励賞	原 義治
第99回全国学生書教展	中国大使館賞	大井 若菜
第99回全国学生書教展	全日本書道連盟賞	佐藤香菜子
第99回全国学生書教展	読売新聞社賞	野田 夏美
第19回全日本高校・大学生書道展	全日本高校・大学生書道展賞	田村 里奈
第30回全国学生書き初め展覧会	毛筆の部第30回展記念特別大賞	奥平 真惟
第43回全書芸展	東京都知事賞	田村 里奈
第43回全書芸展	秀逸	藤木 実樹
第43回全書芸展	秀逸	阪口 温子
第43回全書芸展	佳作	奥平 真惟
第43回全書芸展	佳作	武内 すす
第43回全書芸展	佳作	中川 清楓
第43回全書芸展	佳作	酒井 麻衣
第43回全書芸展	推選	江良衣瑞望
平成26年度弓道女子新人戦	新人賞	植山実華子
第31回読売書法展	入選	佐藤 優弘
第31回読売書法展	入選	武内 すす
第31回読売書法展	入選	竹下 友崇
第66回毎日書道展	近代詩文書部入選	伊藤 華子
第66回毎日書道展	U23 大字書部入選	渡邊 優
東都大学軟式野球秋季リーグ戦	ベストナイン（三塁手）	吉田 直生
東都大学軟式野球秋季リーグ戦	ベストナイン（外野手）	林 京佑
東都大学軟式野球秋季リーグ戦	ベストナイン（盗塁王）	山本 将好
東都大学軟式野球秋季リーグ戦	ベストナイン（捕手）	上原 豊大
第21回よませ全国学生スキーチャンピオンシップ大会	女子大回転新人の部第4位	畑野ゆかり
第30回読売書法展	入選	藤松 理恵
第30回読売書法展	入選	松澤 柚香
第30回読売書法展	入選	山田 優果
第42回全書芸展	秀逸	中川 清楓
第42回全書芸展	秀逸	奥平 真惟
第42回全書芸展	優作	藤木 実樹
第42回全書芸展	入選	荒木 義司
第42回全書芸展	入選	酒井 麻衣
第42回全書芸展	入選	内田 智也

団体		
大会名	受賞内容	団体名
第99回全国学生書教展	団体優秀賞	書道部
第21回よませ全国学生スキーチャンピオンシップ大会	団体男子の部第4位	VOGEL. R.S.C
平成26年度弓道女子部リーグ戦	女子 部Bブロック優勝	弓道同好会洗心会

活躍する学生諸君

今年度も学生が様々な分野で活躍しました。その学生たちに、大学松苓会、父母会が褒賞しています。
多田直希君
改組日展で入選
大学院博士前期2年の多田直希君



沢井 棕君
軟式野球国際親善大会に出場
政経3年の沢井棕君は、全日本大

は、改組第1回日展第五科「書」の部で入選しました。作品は篆刻。

学軟式野球連盟主催の第9回日台大
学軟式野球国際親善大会（12月2日
〜9日・台湾）において、日本代表
選手として出場しました。沢井君
は、東都大学軟式野球の春季リーグ
戦では、投手で最多勝を獲得しベス
トナインに選ばれました。秋季リー
グ戦でも最多勝を獲得しています。
その他にも、活躍された学生の皆
さんを次表で紹介します。

平成27年度二松學舎大学 大学説明会開催日程

開催都市名	開催予定日	会場
山形県・山形市	平成27年6月20日(土)	山形グランドホテル
宮崎県・宮崎市	平成27年6月20日(土)	ホテルメリージュ
福島県・福島市	平成27年6月21日(日)	ホテル辰巳屋
石川県・金沢市	平成27年6月27日(土)	金沢都ホテル
岡山県・岡山市	平成27年6月27日(土)	メルパルク岡山
群馬県・高崎市	平成27年7月18日(土)	高崎ワシントンホテル
山梨県・甲府市	平成27年7月18日(土)	常盤ホテル
静岡県・静岡市	平成27年7月25日(土)	静岡グランドホテル中島屋
大阪府・大阪市	平成27年7月25日(土)	チサンホテル新大阪

平成27年度の二松學舎大学
による、地方での大学説明会
の開催日程（予定）が決定し
ました。この説明会には、大
学から学長をはじめ関係者が
出席し、大学の現況等の説明
も行われます。
開催案内は、開催府県の高
校を対象に送付されますが、
卒業生にとっても母校の最新
の情報を知るよい機会となり
ます。大学関係者との懇談や
支部会員相互の交流の場とす
ることもできますので、奮っ
てご参加ください。

説明会は、午後実施されます。日程・会場等は予定ですので、変更や中止の場合も
あります。詳細は、松苓会本部までお問い合わせください。

キャリアセンターより

後る倒しの日程変更 就活はじまる

大学生の就職活動が、2016年3月卒業予定者（現3年次生）から、企業説明会等の広報活動の開始は3年次の3月から、採用選考活動は8月1日から解禁となる等、日程が後る倒しの変更となりました。これまで就職活動の開始時期等については、大学、企業間双方で見直し等がなされてきましたが、今回のように後る倒しになる変更は、初めてのことで、これにより2015年度の就職活動、採用活動は、従来とは全く異なったものとなるため、各大学、企業ともガイダンスの充実や短期でのインターンシップの実施等、新たな取り組みを行っているところと、本学でも2月の声を聞くとともに、ほぼ、毎日のように就職支援行事、講座等の支援活動を実施して参りました。ここで、本学の就職支援活動について一部紹介します。

「経営者と語る」(平成27年2月3日開催)

東京中小企業家同友会の協力のもと、企業経営者に直接お話を伺い、企業経営や採用選考についての考え

方等を、講演会形式ではなく、双方向に発言するディスカッション形式で開催しました。当日は緊張しながらも経営者の方々に積極的に質問、発言をする学生の姿が多くみられました。また、ご参加いただいた経営者の方々からも参加学生について、「意欲的である」、「この時期にしては、よく準備ができています」等の高い評価をいただきました。

「就活マナー講座」(平成27年2月5日開催)

面接時のマナー対策を中心として、就職活動におけるマナーを身につけるための講座を、学外から専門のインストラクターを招聘して開催しました。身だしなみ、マナー等、いづれをとつても普段なかなか意識しないままに行っている学生も少なからずいますので、これを機にこれらのことを身につけてもらいたいと、考えています。

「就活女子力UPセミナー」(平成27年2月5日開催)

女子学生を対象に、女性が社会に出て働くということをはじめ、就職先を検討するポイント、女子学生ならではの就職活動で留意する事項について、女性キャリアコンサルタントを招聘して開講しました。この講座には1、2年次生の参加者もあり、卒業後の進路、就職について関心の高さがうかがわれました。

「東洋学園大学との合同模擬面接会」(平成27年2月10日開催)

いよいよ、実践に向けての学びです。就職活動の本番では、当然のことながら他大学の学生と勝負していかなければなりません。本学では、4年前から東洋学園大学と共同で、合同模擬面接会を開催しています。実際に企業で採用選考を担当している企業の人事担当者を引き、グループ面接形式で、他流試合ながらに模擬面接を行いました。両大学の学生とも、これまで学んできたことをもとに熱心に模擬面接に臨んでいました。

「WEB対策SPI講座」(平成27年2月12日、13日開催)

現在の就職活動においては、多くの企業や団体がSPI試験を採用選考に用いています。また近年では、WEB上で受験できるテストセンター方式を導入している企業が増加しています。この講座は、従来のSPI対策にとどまらず、テストセンター方式対策として開講しました。

「業界研究会」(平成27年2月17日、19日開催)

製造業、商社・卸売業界、小売業界、印刷業界、運輸・物流業界、IT業界から人事担当者を招聘して、各業界の事業内容や今後の展望、それぞれの業界への就職について講演をしていただきました。この講座は、業界研究を行うにあたり、書籍やホームページ等の媒体によるのみならず、実際にその現場の方々から、最新の情報を得ることにより、

より深く業界について理解をすることを目的として開講しています。

「採用担当者による面接特訓」(平成27年2月17日、19日開催)

先に挙げた他大学との合同模擬面接と同様、実際に企業で採用選考を担当している企業の人事担当者を引き、模擬面接を実施しました。本番さながらの模擬面接で、学生達は人事担当者の方々に多くの指摘、指導を受け、多くの「気付き」を得たものと確信しています。

ここに掲げた講座は、主に学外の講師、企業人によるものを中心に述べましたが、これらのほかにキャリアセンタースタッフによる「就活まとめ講座」や「グループディスカッション対策講座」、「エントリーシートの書き方講座」等を行っています。

3月に入ると、「創縁会」並びに「企業研究セミナー」(学内合同企業説明会)を九段校舎13Fラウンジ及び、ホテルグランドパレスにおいて開催していきます。



教職支援センターから

若手教員と教採合格学生との懇談会

先輩教員から心構えなどを聞く

平成27年2月28日(土)、九段校舎会議室(意見交換会)・13階ラウンジ(懇親会)で「本学卒業若手教員と教員採用試験合格学生との懇談会」を開催した。この懇談会は、その年度に教員採用試験に合格し、4月から新任教員として教壇に立つ4年生が抱えている不安や疑問、新任教師としての心構え、着任までに何を準備すればよいかなどを、若手教



先輩から熱の入った説明(意見交換会風景)

員(本学卒業5年未満)の先輩から、自身の新任の時を振り返っての助言や激励、情報の提供を目的に、毎年度この時期に開催している会である。第一部意見交換会では「学習指導方法」「部活動の取組み」など仕事面の助言。第二部懇親会では、「どんな服装で出勤すればよいか」「着任までに何をしたらよいか」など、身近な事柄の質問が先輩に投げ掛けられ、先輩達が応える場面など和気藹藹とした中にも湧刺とした雰囲気懇親会が終了した。



和やかな懇親会風景(先輩への質問の場面)

教員採用試験合格報告会を開催 受験希望の後輩達に熱い助言と激励

平成26年11月24日(月)、九段校舎1号館507教室で「平成26年度教員採用試験合格体験報告会」が開催された。報告者には、今年度の公立学校教員採用試験合格者から学校種、地域別に6名の方に体験の報告を依頼した。会場には、次年度以降に公立学校教員採用試験受験予定の3年次生を中心に2年次生や1年次生の姿も見られた。報告会は、受験地域の試験の特徴、受験の心構え、合格に繋がった勉強方法、暗記項目など報告者の体験に基づいた先輩の

教員採用試験を振り返る

首都圏を中心に百名余が健闘

平成27年度(平成26年夏実施)の公立学校教員採用試験は全国68道府県市で実施され、受験者約19万人(文部科学省調べ)を数えた。

本学の学生は、東京都、神奈川県、千葉県、埼玉県、茨城県、横浜市、川崎市など17の地域で、約百名の受験者を数えた。(本学全受験者の8割が首都圏を受験)

採用試験は、一次試験が7月中旬に実施され、二次試験は殆どの地域が8月に実施された。採用試験の内容は、従来は一次試験が筆記、二次試験が面接という傾向であったが、最近

熱いアドバイスに、真剣に後輩が聴き入る熱気溢れる雰囲気だった。



自信を持って後輩に報告(報告会から)

は「教員としての資質・人間性重視」の観点から一次試験から筆記と集団面接等を課す地域が増加している。さて、本学では、平成22年度に教職支援センターを開設し、翌年度から教員養成の強化・向上を図るために「国語科教員養成特別コース」を開設。その年度の入学者の中から受講者を選抜し特別クラスを編成して「国語科教員養成特別プログラム」を開始した。

今年度は、この特別コースの第一期受講生が初めて教員採用試験受験の年度にあたり、受講生たちは注目されていたが、期待を上回る結果を出してくれたと言える。

松苓会の歩み

今回は、最初に昨年10月29日発行の『週刊金曜日』（臨時増刊号。特別編集「従軍慰安婦」問題）に掲載された写真について記す。「作家半藤一利氏に聞く」というインタビュー記事に添えられた小さな写真（縦3.5×横4.5）に、「二松學舎専門学校用地」の標柱が見て取れる。写真説明には「東京への空襲によって破壊された校舎を再建するため、がれきを片付ける学生たち。」（提供）AP・AFLO）とある。AFLOからの提供を受け掲載したのが左の写真である。『週刊金曜日』掲載写真では下の石垣部分は省かれている。



焼け跡に立つ標柱（提供 / AP・AFLO）

機また一機と、鮮やかに浮かんでおりました。近衛師団からは激しく高射砲、機関砲で応戦しておりました。特に機関砲の曳光弾が、赤・緑などの尾をひいて飛び、弧をえがいておちるの手に汗をにぎって見つめていたのを覚えております。その

昭和20年3月10日の東京大空襲による校舎焼失について、『二松學舎百年史』に掲載された細井宏二（17回卒）の記録を掲げる。

校舎焼失

当夜は学校防衛のため、学校周辺の生徒が勤労動員（立川の航空廠）の作業を免ぜられ、勤務についておりました。小生の他に五六名程度の少人数であったと記憶しております。空襲警報が発令されると間もなく、午前二時頃でしたでしょうか。B29が編隊を組んで来襲。皇居内の近衛師団のサーチライトに、くつきりと機影が一

うち、ザーと雨の降るような音とともに、校舎の裏手から火の手があたりました。「焼夷弾落下」との友人の声に、防火用水のバケツを手に裏手にかけつけようとしたが、あたりはすでに煙にまかれ、特に廊下が煙突の役目を果たしたのでしようか。玄関に通じる廊下のガラス窓が、バリバリと音を立てて破れ、火は裏手から、玄関（校門）の方に向かって走りまわった。学校の防火用水も（当時手押しポンプもあつたと記憶していません）何の役をなさず、友人とともに、道路に退避するのがやつとのことでした。

校舎内の退避設備として鉄筋の書庫があてられ、いつも扉が開放されていましたが、退避の時に尾崎先生が、扉を閉めて退避されました。この先生の沈着な行動のおかげで、幾多の貴重な書籍が難をまぬがれたと、後になって宮内四郎先生からよくうかがいました。（中略）消防署は校舎がほとんど焼け落ちた頃（夜のしらじら明けの頃）かけつけて参りました。早速放水を始め私達もホースをとって協力致しましたが、付近一帯、火の海のような当時の惨状ですの

で、文字通り焼石に水のあり様であつたと、記憶していません。当時の専門学校在校生は、第17回卒が1年生、第16回卒が2年生で、

3年生（第15回卒）は、前年の9月に繰上げ卒業していた。1年生は勤労動員として立川の航空廠に、2年生は王子の日本鋳業株式会社にかり出されていた。

冒頭に掲載の写真は何時頃撮られたものであろうか。

前号でふれた「那智佐典日記」（『三島中洲研究』<103>所収）には、同年4月に焼跡整理の記録があるが、その頃ではなく8月15日の終戦後のものである。焼跡地の「二松學舎専門学校用地」の標柱に記憶のある方はご教示頂きたい。

仮校舎時代

3月10日の校舎焼失により仮校舎時代が始まる。「那智佐典日記」には、

「乙酉三月十六日 陰 富士見町日本歯科専科二於テ、松巒事務ヲ執ル。」

「（五月十日）此日、齒科医専科ヲ引払。校長及理事長ニ謝シ、渋谷区代々木本町八三四番地基（督）教会堂ヲ借り移転ス。」

「（二十一年一月十四日）此日、代々木富谷町一四三番地名教中学ノ一部教室ニ移転。一切ノ校舎什器等ヲ運搬。一二年生十五名来リ手伝。」

「（二十二年十月廿七日）此日、自動車二台ヲ以テ学校所有ノ器物ヲ全部、三番町ノ新校舎ニ運搬ス。」とある。

これを当時の在學生との関係から整理すると次のようになる。
昭和20年3月10日 校舎焼失

3月 日本歯科医専門学校を仮校舎とする。

4月10日 第18回生が日本歯科医専門学校仮校舎に入學
5月10日 代々木本町の基督教會に移る。

8月15日 終戦
9月30日 第16回生基督教會で繰り上げ卒業

昭和21年1月14日 富ヶ谷町の名教中學に移る。

4月 第19回生 名教中學仮校舎に入學（4年制の専門學校）

昭和22年3月 第17回生 名教中學仮校舎で卒業

4月 第20回生 名教中學仮校舎に入學（最後の専門學校生）

10月 三番町校舎に引越し
11月3日 三番町校舎落成式
昭和23年3月 第18回生 三番町校舎で卒業

校舎再建募金

『百年史』には「専門學校新校舎は、二松學舎専門學校校舎焼跡地に政府からの貸付と各方面の援助とを得て昭和22年夏、着工し、同年10月末、第1期工事がほぼ竣工し、11月3日、落成式を挙行了した。」とある。



校舎再建募金報告書（昭和22年8月）

この新校舎建築に係る資金調達に協力するための松苓会の募金活動がわかる資料が大学に残っている。

「松苓会建設促進委員」の名称で、募金に応じてくれた同窓への報告書（中間報告）である。日付は昭和22年8月18日（新校舎の上棟式が行われた日）。B4用紙にガリ版刷りで、前半分に報告書と那智佐伝校長、塩田良平常任理事連名の松苓会宛て感謝状が、後半分に二松學舎新校舎設立寄付金額が法人役員、教職員、卒業生に併せて卒業生年度別寄付金一覧表を載せている。以下にこれを掲げる。

拝啓 残暑厳しき折からお変わりなくお過しの事と存じます。偲先般来校舎復興の為卒業生諸氏に御寄附をお願い致しました處、予定の四拾萬圓には達しませんが、

一先づ別紙通りの金額を御寄せ下さいましたので新校舎の上棟式を機に学校当局へ呈上致しました。一応中間報告を申し上げます。尚、寄附は未だ打切ったわけではなく継続中でございますので御存じの松苓会会員諸氏へも御勧誘下さいますやうお願い申し上げます。まづは御礼かたがた御報告申し上げます
敬具
昭和二十二年八月十八日
松苓会建設促進委員
（殿）

感謝状

一金 六萬七拾七圓 也
右校舎復興資金として正に有難く拝受致しました。

昭和二十二年八月十八日

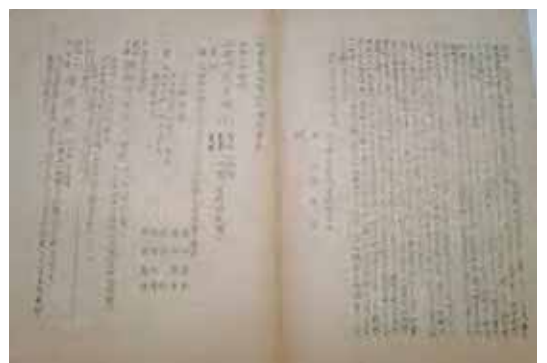
二松學舎専門學校長 那智佐傳
財団法人二松學舎
常任理事兼教授 塩田良平
松苓会 御中

二松學舎新校舎設立寄附金額（略）
卒業年度別寄附金一覧表（略）
尚、第十七回卒業生61名の寄附総額は壹萬五千二百五十圓ですが、別会計として追って詳細御報告いたします。

学校債発行

更に9月9日付の学校債募集に協力依頼する文書が残っている。

前号で紹介した「那智佐典日記」の9月6日「午後4時、書庫側



校債引受け依頼文書（昭和22年9月）

室二松苓会委員数名集會。校債発行ノコトニツキ、其引受方ヲ依頼スに当たるものである。卒業期毎にその期の代表者が同期生にお願いする体裁になっている。同様にB4用紙ガリ版刷りで、前半に協力依頼文を、後半に二松學舎出版部近刊予約募集として『二松研究年報（1）』、『新制中學 國語四（漢文）の研究』、及び『平成23年度 靖國曆』の広告が掲載されている。以下に校債引受け依頼文を掲げる。

拝啓 秋風が身に浸みる候となりました。其後益々御健勝の事とお慶び申し上げます。偲先般来校舎再建の為学校当局者・在校生・父兄一丸となって新築工事に邁進致し、我等同窓生一同も出来る限りの力を尽して居るつもりでござ

います。然し寄附に關しても全卒業生予定額四十万円はおるかその七分の一の六萬円そこそこしか集まりませんので、我々卒業生の氣持と致しましても学校に対して面目なく、又熱意の点に於ても恩師・在校生に軽重を問はれはすまいかと心苦しく思つてをります。一方新築工事は那智校長・塩田理事を初め関係者一同の並々ならぬ御努力により去月十八日上棟式を終へ、現在は完成一步前の仕上工事を急いで居ります。

思出の地九段上に壮大な校舎が焼跡の秋風になびく草の中に聳え立つて日一日と完成されゆく様は涙が出る程の感激です。仄聞する所に依れば学校当局の内情は実に苦しく、教職員の方々の俸給さへ満足には支払へぬ状態との事ですが、建築費の方はゆるがせにする事は出来ず、工事成後高等学校併立の大学昇格を控へて大努力中との事です。

而して学校当局の窮余の策として額面五百円及び千円の復興校債を發行し父兄・卒業生より建築費を借用する事になりました。五ヶ年返済で利息は三分ですが、二松學舎出版部其の他の事業に依つて返済期限前にお返し出来る見通しもついて居ります。校舎が建てば高校併設の大学として大いに発展する将来性を持ってをり、若し万一工事途中で完成不能となる

か、借財のため第三者にとられれば七十年の歴史は今年限り永久に滅び去ります。この窮状に立つてゐる母校の為、御寄附をお願い致した上重ねての御願ひで洵に恐縮に存じますが、御協力いただきたく再度お願い申上げる次第です。何卒我々の微衷を御酌量の上宜しくお願ひ申上げます。

昭和二十二年九月九日

二松學舎専門學校松苓会
第 回 卒業生

() 殿 () () ()

この折の校債募集は昭和24年まで行われたことが二松學舎大学新聞第81号(昭和33年12月1日発行)によつてわかる。それには「本学発行の旧校債について」として、「昭和22年から昭和24年の間本学で発行した校債を所持する当時の教職員学生同窓等のうち次の諸氏はこれを母校再建のために寄付する旨の申入れがあつた。」として51名の名前を掲載している。

18 回生の会誌『松窓』

今号の校舎焼失、仮校舎時代、新校舎の建築を扱つにあつて、専門学校16回、17回、18回生の記録を、『百年史』『茯苓』『松苓会報』等で確認することとなつた。その中で



18 回生の会誌

18回生の同窓会誌が第6号から第9号まで大学にも納められていることが浅井昭治氏(専18回)の御教示で分かり、それを紹介したい。

18回生は、昭和20年4月に仮校舎の日本歯科医専門學校に入学、代々木教会、名教中学校を経て新築なつた三番町校舎で昭和23年3月に卒業している。

昭和20年代の後半に第1回の同期会を、昭和52年に第2回を、昭和60年からは毎年のように同期会を開催し、平成6年11月に会誌『松窓』(第1号)を發行、第9号(平成19年11月24日)まで發行している。目次は毎号、近況報告、惜別、随想、松窓会記録、同窓名簿、編集後記からなつている。第9号の「惜別」は、西君の思い出(諫武保夫) / 西敏君の死を悼む(大谷光男) / 剣持・中塩両君の追悼の言葉(中村謙秀) / 畏友の一人 剣持君を偲ぶ

(星田良光) / 万葉一筋の生涯 佐藤君を偲ぶ(浅井昭治)。「随想」は、この頃のこと(須田哲夫) / 雜感(安藤武宏) / 最後の松窓に寄せて(土肥實忠) / 釣り場でのメモから(平澤清之助) / 「こころ」のモデルは「明治の心」 「友情」を結んだ俳句と「能楽」(星田良光)である。

18回生の他にも、会誌を發行している回(12回生の会誌『停雲』など)があると思われる。松苓会本部に情報を寄せていただければ幸いです。

(文責 小林公雄)

資料提供のお願い

二松學舎松苓会史編纂のための資料を収集しています。特に次の資料をお持ちの方は、ご一報ください。
・機関誌『松苓』創刊号、第5号、第6号、第7号、第8号、第10号以降の号
・松苓会名簿 昭和13年以降昭和30年代までに発行されたもの
・松苓会会則資料
・松苓会活動(本部)に關する資料、支部活動に關する資料(支部報など)、同期会、クラブ等のOB会などの写真、専門学校時代、昭和20年、30年代の写真、卒業アルバムなど

松苓会役員・支部長名簿

平成 27 年 3 月 1 日現在

Table with 4 columns: Role (役員), Name (氏名), Term (卒回), and Name (氏名). It lists various board members and branch leaders with their names and graduation years.

第 87 回選抜高等学校野球大会

祝 センバツ出場 二松學舎大学附属高等学校

昨年夏の大会に初出場を果たした附属高等学校野球部は、3月21日開幕の第87回選抜高等学校野球大会に夏春連続で出場する。選抜大会出場は11年ぶり5回目。昭和57年の第54回大会では準優勝している。

同校野球部は、昨年の秋季東京大会決勝で東海大菅生と対戦、惜しくも2対3で敗れたものの準優勝。その活躍ぶりが評価されての選抜出場。昨年夏活躍した大江竜聖投手、今村大輝捕手など甲子園経験者がそろっており、選抜大会での活躍が期待される。ご声援をお願いします。

松苓会では、昨夏同様、同校野球部の活躍を支援するため、松苓会長が支援委員会のメンバーに加わります。

また、支援募金(1口 5千円。4月30日まで受付)にご協力くださる方は、次の方法でご送金していただければ幸いです。(郵便局、銀行備え付け用紙利用の場合)



Information box containing bank transfer details for the school, including postal office and bank information, and instructions for donations.

支援募金専用の払込用紙をご希望の方は、松苓会本部にご一報ください。

その他、ホームページ(大学ホームページ「教育振興資金のご協力のお願い」、附属高校ホームページ「野球部甲子園出場」)からもお申し込みができます。

この寄付金は、教育研究振興資金「附属高校の教育環境整備」として税制優遇措置が受けられます。



「都心で学ぼう2
体験的国際政治
経済」の紹介

二松學舎大学国際政治経済学部が編集した、『都心で学ぼう2 体験的国際政治経済』が昨年11月に戎光祥出版から発行されました。定価は税抜きで千四百円です。

寄付者芳名

平成26年3月1日から平成27年2月末日までに寄付いただいた方のご芳名を掲載します。(敬称略) たくさんの方のご協力に心より感謝し、厚くお礼申し上げます。(一口千円)

Table listing names and amounts of donors. Includes names like 井川洋子, 坂井福作, 松永昌之, etc., and amounts such as 文43, 文42, etc.

訃報

橋本栄治名誉教授



平成27年1月2日ご逝去されました。享年91歳

橋本先生は、昭和33年本学文学部中国文学科を卒業(第26回卒)されました。昭和34年に母校に勤務、平成6年3月に定年退職されるまで、一貫して二松學舎大学の教育研究に携わりました。

この間、昭和43年に大学講師、同50年に助教、同57年教授として中国文学を講じられる傍ら、昭和39年教務課長、同57年図書館分館長。平成元年図書館長、同4年学務部長、同5年学務局長などの要職を務められ、母校の発展にご尽力されました。

ここに、謹んでご冥福をお祈りいたします。

お詫びと訂正

前号(51号)「佐古純一郎先生を偲んで」の頁で、「大学新聞」の記事の最後の行が二段にわたり脱落してしまいました。一段目は「求「小林秀雄ノート」「近代日」、二段目は「てい。教えるというふうなこと」が入ります。お詫びして訂正いたします。

表紙写真

二松學舎大学に通った時代から、千鳥ヶ淵はそのままであり、ポートも戦没者墓苑も昔のままです。3月、4月と千鳥ヶ淵の桜は二松學舎大学の卒業と入学を祝うかのように、見事な花を咲かせます。全国的にも桜の名所として知られ、この時期は大変賑わいます。夜桜の景色もまた格別です。桜見物を兼ねて、ぜひ大学にもお立ち寄りください。

編集後記

昭和6年に、松苓会が創設されてから来年85周年を迎えます。現在、記念事業を行うにあたり、実行委員会を立ち上げて計画を練っています。奇しくも今年は戦後70年。今号の記事にもありますが、東京大空襲の焼け跡から立ち上がり、校舎は現在の地に再建されました。卒業生の強い愛校心の上に、現在の二松學舎があります。

オール二松學舎を心に、温故知新を大切にしながら、未来へと羽ばたいていきたいものです。

二松學舎松苓会報 No.52

創刊 昭和62年12月1日
発行 平成27年3月16日
集所 二松學舎松苓会
〒102-8336 東京都千代田区三番町6-16
電話 03-3261-7408
振替口座 00180-5-160343 (郵便局払込取扱票)
印刷 (株)サンセイ



二松學舎大学(松苓会) ホームページ www.nishogakusha-u.ac.jp
shourei@nishogakusha-u.ac.jp
松苓会 E-mail